

新型コロナウイルスの影響で途中中止となったため発行を中止した「えーる！」里山オープンガーデン特集号を収録しました。

次回の開催では最後まで鹿野の皆さんが育てた花が楽しめる日が来ることを祈りつつ、ご覧いただければ幸いです。

2021

えーる!

形を変えて咲く 千の花火

新年あけましておめでとう
ございます。新しい年を迎え、
装いも新たに鹿野の情報をお
届けします。今年最初の「えー
る!」は、いつもと少し違う
形で開催された、かの冬花火
「銀嶺の舞」についてご紹介し
ます。

スクリーンに映る映画と 大輪の花火

28回目となる「銀嶺の舞」。
例年なら鹿野総合体育館周辺
でステージイベントや多くの
屋台でにぎわいますが、今年
は鹿野小中学校のグラウンド
で、車内で映画を楽しむドラ
イブインシアター形式で行わ
れました。

指定された場所に車を停め
て、まずは腹ごしらえからで
す。今年はテントでフランク
フルトや肉まん、豚汁や温か
い飲み物などが販売されまし
た。日が落ちて寒い中、車に
持ち帰って、大きく切った具
材をしっかり煮込んだ豚汁を
食べたのですが、そのおいし
さは格別でした。温かいもの
を口にする、ほっと一息つ
けるなあと思いました。

おなか一杯になって、暖房
のきいた車内で映画を楽しん
だ後、いよいよ花火の時間デ
す。例年ならレーザー光線や
スモークが舞い、音楽と共に
花火が打ち上がりますが、今
年はどうなるのだろうと思っ



ていると、音楽に合わせて、
空いっぽいに約1000発の
花火が上がり始めました。

レーザー光線の代わりにス
クリーンを使った映像が流れ、
ころなしか例年よりも高く
打ち上がる花火を見ていると、
次はどんな演出が始まるのだ
ろうとワクワクしてきました。
いつもと形は違っても、舞う
花火はいつもと同じ。目が離
せない素敵な時間をプレゼン

トしてくれました。

こうして形が変わってもイ
ベントを楽しむことができた
のは、実行委員会の皆さんや、
寒い中誘導や販売をしていた
だいた皆さんのおかげだと思
います。今までは形を変え
た「銀嶺の舞」ですが、皆さ
んの力があつたからこそ、思
い出に残る素敵なイベントに
なったのだと思います。来年
の「銀嶺の舞」も楽しみですね。



祈願祭と地域の宝物

12月13日に、渋川の宝作神社で宝くじ当選祈願祭が行われました。この神社で祈願された宝くじが当選したことをきっかけに、渋川宝くじ当選奉賛会の皆さんによって、平成18年から祈願祭が開催されるようになったんですよ。

約30人が集まって、祈願祭が行われた後、地元の方が作ったぜんざいが振る舞われました。炭火でじっくり焼かれた餅の入ったぜんざいを焚き火のそばで口にする、寒い中ながら、体の奥から温かくなってきました。

祈願祭と共に振る舞われるぜんざいの甘さや、焚き火を囲んで顔見知りと言葉を交わす時間……祈願祭自体はもちろんですが、こうした振る舞いもずっと続いてほしいと思います。温かい接待をしてくれる地域の人もまた「宝」なのだなと感じました。



展示の第一印象は「これ、本当にボールペンなの？」でした。12月27日まで子たぬきギャラリーで開催されていた、モノクロ画家マエサキマユさんの「不思議の国のクリスマス展」の作品たちは、なんとボールペンで描かれたもの。

しかし、近づいて目を凝らして見ても、ボールペンで描かれたとは思えないほど繊細で美しい作品ばかり。額に入った小さな絵や、下の写真のようなオーナメントなど、さまざまな作品を楽しむことができました。

マエサキさんの作品テーマは、子どもたちの見ている日常に潜むファンタジーなのだから。4人の子どもを持つお母さんならではの作品ですね。

ギャラリーにはたくさんの人が訪れ、作品が鹿野と人をつないでくれていると感じました。次はどんな展示を見ることが出来るのか、とてもわくわくしてきます。



ボールペンの描く「ファンタジー」





声の活動は “素の自分”でいられる場所

小 学校の頃からアニメやマンガが好きで、声優になりたいと思っていました。そう語るのは、鹿野出身で、現在はフリーのナレーターとして活動している瀬来未央さんです。今月号の「えーる!」では、瀬来さんが続けている、声の活動と、その思いについて、お聞きしてみました。

「声優になるという夢をかなえるため、大学時代には、声優の養成所にも通っていました。が、大学を卒業して結婚を機に山口に戻った時、いったん声の仕事を断念した時期がありました」

山口に帰った後も声に関する仕事をしたいという思いを持ち続けていた瀬来さんは、約8年前から、有志と共に、インターネット上でCMのナレーションなどの音声作品を作り始めました。

「ナレーター活動は、まさに一からのスタートでした。機材のことも分からず、まさに手探りで活動を続けてきました。くじけそうな時もありましたが、活動を続けることができたのは、やっぱり声の活動が好きだからだと思います」

そんな瀬来さんのモットーの一つが「継続は居場所なり」。どんな意味かと聞いてみると、「苦手なことは敬遠してしまいがちですが、それから逃げず

に一つの活動を続けると、たくさんのご縁ができます。私は他県の人と一緒に、声に関するサークル活動を続けていますが、長く続けてきたその活動が、自分の居場所を作ってくれていると実感しています」と話してくれました。

瀬来さんは、アニメなどのサブカルチャーの力で周南市を盛り上げるイベント「萌えサミット」の公式キャラクターの一人の声を担当したり、ラジオでパーソナリティを務めているたりしています。

主婦業のかたわら、声の活動を続ける瀬来さん。最後にあなたにとって声の活動とはどういうものですか? と聞くと、瀬来さんは笑顔でこう話してくれました。

「私にとって声の活動とは、主婦業や母親業に追われる慌ただしい毎日の中、素の自分に立ち帰ることができる時間です。私にとって、言葉は大切なコミュニケーションツールの一つなんですよ」

SERAI NO SEKAI

瀬来 未央 OFFICIAL SHOP

瀬来さんはホームページから、ナレーションから受験生への応援ボイスなど、さまざまな声の仕事を請け負っています。もし、何か「声のお仕事」が必要な時は、瀬来さんのことを思い出してくださいね。

瀬来さんの声はここから

MIO SERAI OFFICIAL SHOP

検索





思い出の場所は漢陽寺



瀬 来さんに、子どもの頃を過ごした鹿野の思い出を聞いてみました。

「印象に残っているのは、中学の3年間、茶道の稽古で通っていた漢陽寺ですね。礼儀作法が学べるかなあと、友達と一緒に始めました。厳しささえ感じるような、稽古中の空気を思い出します。茶道のおかげで、今でも姿勢に気を付ける習慣が身に付きました」

そう語る瀬来さんに、漢陽寺の素敵な場所を聞いてみると、本堂前に広がる曲水の庭を挙げてくださいました。特に素敵なのは秋。庭の様子と、周囲を囲む紅葉の様子が、とてもきれいで素敵だったそうですよ。



「あの人にも届けて」
つながるきもち。

1月からかなりの大雪が続きましたが、晴れた日はずいぶん暖かくなってきて、春が近づいていることを感じますね。

今月号の「えーる!」は、異世代交流子育てサロン asis さんが運営する、ふらっと食堂の活動をご紹介します。

以前の取材の時は、コアラザカで豚丼をテイクアウト配布していた asis さん。今回は、ふる里マルシェかの横のログハウスを利用して保存食の配布を行いました。

1月に続き行われたこの配布会では、たくさんの人が保存食をもらっていました。テイクアウトだけでなく、食品の配布も asis さんの活動の一つなんです。



よく晴れた中、実施された配布会では、何度もある言葉が繰り返されていました。

「近所に、なかなか外に出られなくて困っている人がいたら、その人にも持って行ってあげて

くださいね」

新型コロナウイルスの流行に加え、1月からの大雪の影響で外出が難しく、会場に來ることができない人たちのことも思いながら、この配布会が行われていたんですよ。

たくさんの方の来場者から「あそこの方が困っちゃうみたいじゃけえ、持って行っちゃげようかねえ」と、自然に助け合う言葉が聞こえてきました。

自分自身のことだけで精一杯になってしまいうような毎日。そんな中でも、他人を思いやる言葉を聞くことができて、なんだか心が温かくなるような気がしました。



テイクアウトを行います

日時

4月4日(日) 11時～13時30分

場所

コアラプラザかの

内容

ふらっと食堂の

豚丼テイクアウト

asisさんは、4月にテイクアウトで豚丼配布と食品の配布会を行う予定です。

時間が合う人は、ぜひ立ち寄ってくださいね。



石の中で汗びっしより 石風呂の歴史に迫る



国道315号線の道沿いに見えた石組みの施設。これはどうやら風呂らしいと聞き、実際に利用していたという人に話をうかがってみました。利用していたのは60年以上前で、内部を火で暖めて灰をかき出した後、熱くなった床面に草などを敷いて横になっていたそうです。

この風呂は皆で使っていたという話で、地域の人もよく立ち寄っていたのだとか。この石風呂は、地域の憩いの場だったのかもしれない。



今回取り上げた石風呂は、蒸気浴、もしくは熱気浴と呼ばれる仕組みのようです。かつては「風呂」というと蒸気浴・熱気浴を指していて、その起源は奈良時代にまでさかのぼることができる、とした文献も存在しています。石風呂は日本人にとって、はるか昔から存在する、なじみ深い施設だったのだろうと考えられます。現代の施設でいうと、サウナや岩盤浴が石風呂の仲間になるでしょうね。

里山に集う想い



鹿野の町並みに雑木を植え、ベンチを設置して木漏れ日の下で憩える空間を作る「木漏れ日計画」など、鹿野を訪れる人たちの増やそうとさまざまな企画を行っている鹿野の風プロジェクトさん。その企画の一つとして、令和2年から実施されている「里山オープンガーデン」が、今年も開催されます。

参加者の皆さんが造った庭を訪れた人たちに见てもらい、楽しんでもらいたい……そんな思いで行われるこの企画。バラなど華やかな花を使ったものが多いオープンガーデンですが、この企画に参加する庭は、山野草など自然の草木を取り入れ、よりナチュラルな庭に仕上げたいという思いで行われます。

3月7日には、約30人の関係者がコアプラザかのに集まり、会議が行われました。農業を営む人たちが、取材した異世代交流子育てサロン「asis」のお2人など、庭の主催者以外にもたくさんの方が集まって話が進められました。

話し合いの中では、鹿

野のお米の良さを知ってもらうための、お米の無料配布や、ミニコンサートの実施など、さまざまなイベントについて意見が交わされました。その他にも、運営についての質問が交わされるなど、実施に向けての皆さんの意気込みを感じる事ができました。まちづくり応援団えーるでも、全ての庭を回り、その様子をお届けしていききたいと考えています。

月末には大型連休を迎えますが、まだまだ新型コロナウイルスの影響は強く、遠出するのは難しいのが現状です。

今回参加した庭は、全部で26カ所になります。鹿野の中で自然を満喫できるこの催しに、ぜひ遊びに行ってみてくださいね。

会場にたなびく黄色い旗を目印に、「鹿野の風」を感じながら庭を歩いてみませんか？





／お庭拝見／

四季折々の顔がある

岩と樹と水が彩る末田ガーデン

今回、里山オープンガーデンに参加される、渋川にお住まいの末田さんは、今年で82歳になります。昔、造園会社勤務していた経験を生かし、自宅周辺を切り拓き、素敵な庭を造られました。

元々は草ぼうぼうだったそうですが、今では岩と樹木が組み合わさった、とても素敵な庭に変身しています。

この庭の魅力は、春にはサクラ、夏にはアジサイ、秋はモミジ、そして冬には雪景色と、四季折々の顔を見せてくれることなのだとか。

「朝から晩まで庭を造り続けていたこともありまして」と語る末田さんの造りあげた庭は、休憩所や池が造られ、その広さもあって、見ごたえ抜群です。岩や木々の存在感を存分に味わえる庭ですね。

花もこれから芽吹くそうで、期間中はたくさんのお花を見ることができそうです。

手作りの門をくぐった先に広がる岩と樹木、そして花の作り出す世界を、ぜひ楽しんでみてくださいね。



里山オープンガーデン

実施期間 5月31日（月）まで

開放時間 10時～16時

※庭園の開放日・時間帯は庭主によって異なります。

国道315号線沿いの旧「しゃくなげ」の位置にある
ふる里マルシェかの（☎0834-51-0091）
さんが、当イベントの案内所になっています。



桜咲く4月、 風吹く5月。

No. 26 「金峰の里」

あちこちで田植えが始まり、鹿野にも春がやってきましたね。今月号の「えーる！」では、5月末まで開催中の里山オープンガーデンを追いかけました。

まずは、里山オープンガーデンの中でも、たくさん桜に彩られた庭をご紹介します。

桜の庭三選

防長の吉野をつくる会の皆さんによって、25年間、3500本もの桜が植樹されて造られた「金峰の里」の桜たちは、一カ所に留まらず金峰地区のあちこちに咲き乱れていて、金峰を文字通り「桜の里」にしています。

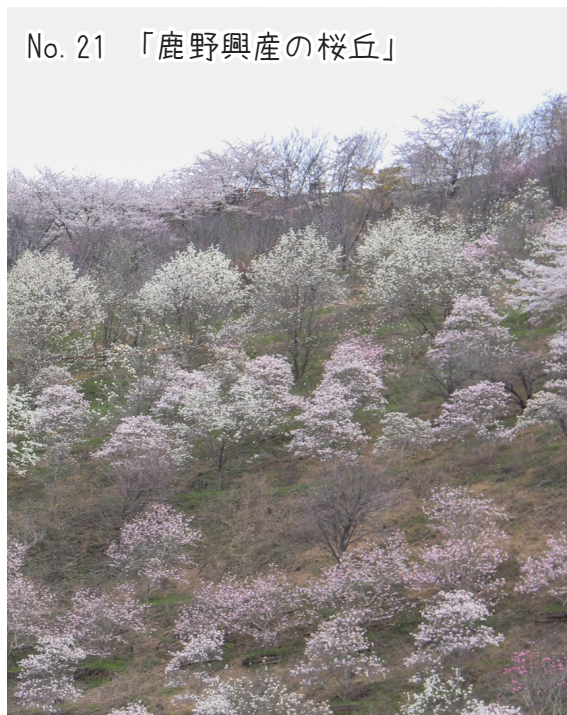
「鹿野興産の桜丘」には、鹿野興産の碎石跡地に、桜を始め1万本以上の木々が植えられています。丘一面に咲いた桜の様子に、思わず「すごい」とつぶやきが漏れました。見上げると広がる桜の丘は、とても素敵な景色でしたよ。

金峰から坂根方面に向か



No. 20 「坂根の里・道端の芝桜」

No. 21 「鹿野興産の桜丘」



うと現れる「坂根の里・道端の芝桜」の光景は、足元に広がる芝桜のピンクと菜の花の黄色、見上げると桜の薄い桃色が広がり、それまでの緑とはまったく違う世界を作り出しています。

た。周囲には菜の花の香りも満ちて、花だけではなく匂いも楽しむことができました。

桜の色と、同時に咲く菜の花の香りに、春を感じる事ができました。



わたしのイチオシ！ 風の吹き抜ける庭たち

桜の季節が終わり、気持ち良い風が吹く季節になりました。里山オープンガーデンに参加した26カ所の庭の中から、心地よい風を感じた庭をご紹介します。

No. 24 「山田ガーデン」

斜面に咲くネモフィラ、高台に設置されたベンチと、そばに立つ木。ベンチに座って眺める絶景は、ぜひ現地で楽しんでください。



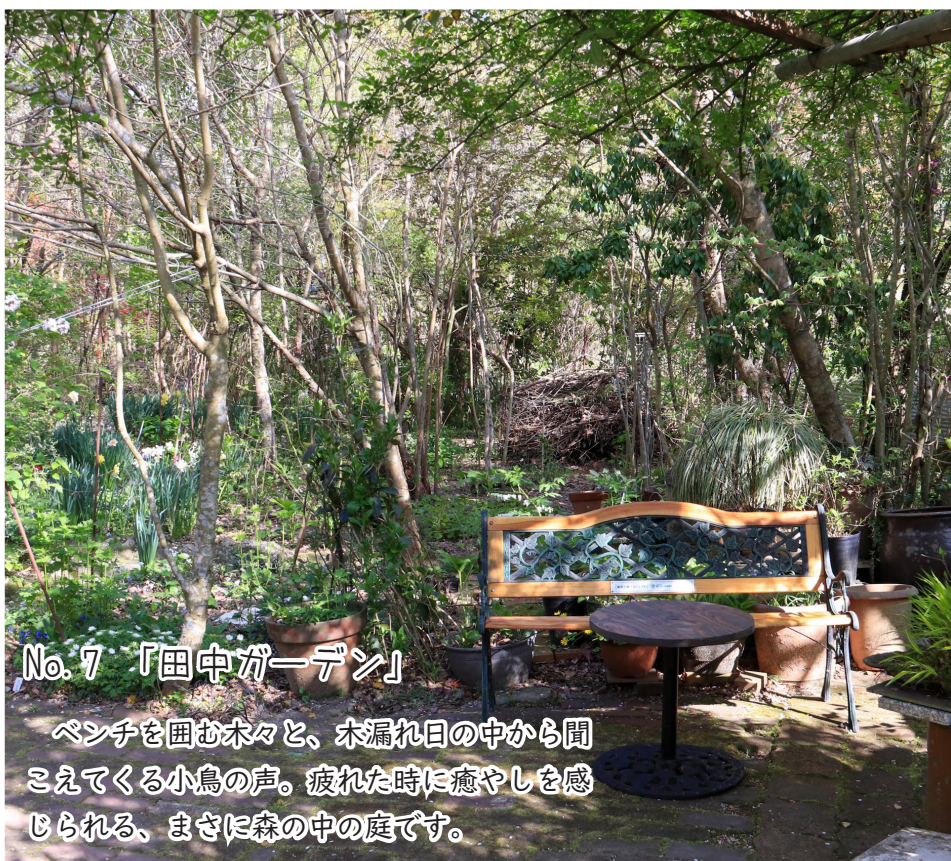
No. 6 「林ガーデン」

コンパクトにまとまった庭と、存在感のある巨大な石。ウッドデッキの上に立つと、吹き抜ける春の風を感じることができます。



No. 7 「田中ガーデン」

ベンチを囲む木々と、木漏れ日の中から聞こえてくる小鳥の声。疲れた時に癒やしを感じられる、まさに森の中の庭です。



あなたの“お気に入り”も、きっと見つかる

紙面の都合上全ての庭を紹介することはできませんが、参加した庭はどれも個性派揃い。「鹿野の風」プロジェクトのホームページや、案内所「ふる里マルシェかの」(☎0834-51-0091)で、庭の情報が手に入りますよ。

まちづくり応援団えーるのホームページでも、参加した庭をご紹介します。

えーる!

Vol.68 2021.6

雨と、緑と、鏡池

梅 雨入りして、雨の日も多くなってきましたね。今月の「えーる!」では、漢陽寺に伝わる言い伝えに係る史跡を追いかけてみました。

山門前の「鏡池」

漢陽寺の山門前に広がる鏡池には、こんな言い伝えがあるんです。

漢陽寺の開祖・用堂明機禅師が唐の国に留学していた時、ひどい風波に遭われました。禅師が一心に念じ続けていると、聖観音さまが現れ、禅師を救ってくださいました。難を逃れた禅師は、愛用する八葉の鏡を空高く投げ、鏡の落ちた場所に聖観音さまを安置しようと心に決めたそうです。

帰国後、禅師は各地を旅して、鹿野にたどり着きました。そして、お寺を作ることにになり、鍬入れをしたところ、なんとあの八葉の鏡が出てきたそうです。

鏡の出た場所には池が作られ、その池が鏡池と呼ばれるようになったんですよ。

直径約3メートルの小さな池には、そんな言い伝えがあったんですね。

いつもは通り過ぎてしまふ鏡池の前で足を止めて、じっくりと眺めてみることにしました。

目に留まったのは、池を囲むまぶしいモミジの緑。鮮やかな緑色に、春が深まってきたことを感じました。秋には真っ赤に染まるんだろうな、と思うと、数カ月先が楽しみになってきます。

池のコイたちも、こちらに気付くと口を開けながら近づいてきて、水面がバシャバシャと賑やかでしたよ。

お寺に入る前、ちょっと池を眺めてみるのもいいなと思いました。

池には絶えず水が流れ込み、たくさんのコイが泳いでいます。



鏡池の中には、用堂明機禅師の石碑が建っています。

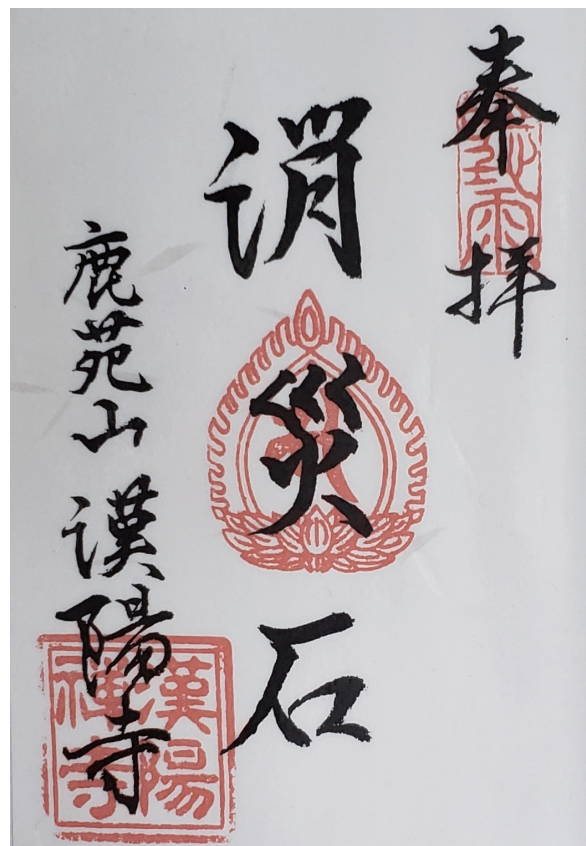


“災いのない穏やかな世の中に” ……祈りを込めて

消災石の言い伝え

径 山寺が焼けている、早くこの石に水をかけなさい
……漢陽寺の開祖・用堂明機禪師はある時、夜中に眠っている弟子たちを起こしてそう叫んだそうです。径山寺とは、禪師がお世話になっていた唐の国のお寺で、いぶかしみながらも師の言う通り石に水をかけると、まるで焼けた銅を水につけたような、すさまじい水蒸気が立ち上ったそうです。

それから3年、唐の国からやって来た2人の僧侶が「3年前、径山寺が火災に遭った時、お助けいただきありがとうございます」とお礼にやってきて、弟子たちは



皆びっくり仰天したそうです。

火災を消した石として伝承の残る消災石は、曲水の庭を囲む堀の外側に安置されています。長さ1メートル、厚さは80センチメートルにもなる巨大な石で、そばには石の名を刻んだ標柱も立っていますよ。

収束の願いを込めて

まさに新型コロナウイルスという災いが広がっている今の世の中。消災石の名前が書かれ、コロナ収束を願った御朱印を見つけた。不安が続く、我慢を強いられる毎日ですが、災いが消える日が来ることを信じていますね。

みんなで造った「鹿野の宝」

～漢陽寺庭園が国の登録記念物に～

曲

水の庭をはじめとした漢陽寺の6庭園。

著名な作庭家である重森三玲氏によって造られたこの6庭園は、平安時代から昭和時代まで、さまざまな様式で造られた庭たちです。

この6庭園が、文化財の一種である国の登録記念物として登録予定となりました。県内では4例目になる登録で、全国的に見ても、とても貴重なことなんです。

日本にない庭を

鹿野の人と共に

前住職が重森氏に作庭の相談をした時、重森氏は潮音洞から流れる水を見つめて「今まで日本にない庭を造りたい」と話されたそうです。

こうして造られた曲水の庭は、平安・鎌倉時代に多く造られた曲水の様式を、室町時代に流行した枯山水の中に通すという、他に類を見ない形として完成しました。

調査・設計から5年を費やして造られた6庭園には、作庭の材料にもこだわりが見られます。普通は業者の石置き場から材料を選びますが、漢陽

寺の庭は現地で石を調達して造られました。

また、重森氏は全国を忙しく飛び回り、一カ所に留まらない生活をして

いたそうですが、漢陽寺の作庭中は、寺内で寝泊りしていました。作庭の合間をぬって、鹿野の人に生け花などさまざまなことを教えられ、さらには「重森塾」といった様相だったそうです。

こうして地元の人と一緒に庭を造るということ

は、重森氏にしてはとて珍しいことだったのだとか。これも漢陽寺庭園が重森氏の他の庭と違うところなんです。

漢陽寺の住職である杉村さんは「漢陽寺庭園は鹿野の宝。登録を起爆剤にして、鹿野がもっと活性化してほしいです」と話してくださいました。

重森氏と鹿野の力が集まったこの庭を、これからも大事にしていきたいですね。





ほうらいさんいんにわ
蓬萊山池庭
(鎌倉時代様式)



くせんはっかい
九山八海の庭
(鎌倉時代様式)

5つの時代の庭たち

曲水の庭と合わせ、登録記念物として登録予定の庭園たち。平安時代から昭和の近代モダン様式までの5時代の様式を、漢陽寺で見ることができます。



じぞうゆうげ
地藏遊化の庭
(室町時代様式)



そうげんいつてき
曹源一滴の庭
(桃山時代様式)



しょうしょうはっけい
瀟湘八景の庭
(近代モダン様式)
※通常は非公開です。

鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2021.8
Vol.70

合言葉は「かくれが」

鹿野を元気にし、鹿野の
ことを、もっと知って
もらいたい……そんな思い
で、異世代交流子育てサロ
ンアサシスの岡崎さんと数
井さんが呼びかけ、7月11
日に実施された「かくれが
マルシェin鹿野」。

鹿野のあちこちを巡りな
がら、お店と一緒に鹿野の
自然を楽しんでほしいとい
う思いから、1カ所の会場
ではなく、鹿野の各地6カ
所で行われました。各店舗
では、合言葉を伝えると限
定商品を購入できるなど、
楽しい仕掛けも準備されて
いました。今回参加した6
店舗は、裏面でも紹介して
います。

「かくれがマルシェ」しませんか

かくれがマルシェの参加者は随時募集中です。
参加者はポスターでも確認できますよ。
問合せ 岡崎さん ☎090-7770-7038
数井さん ☎090-9509-4459



合言葉を伝えるとパンが1割安くなりました。特典を利用して、丸太食パン1本を購入。大きく厚切りにして焼いたパンは、とてもおいしかったです。



子だめきのパン

限定商品として提供されていたのは白桃パフェ。清流そばのテーブルで水音と風を感じながら食べると、とっても“涼”を感じることができました。



カフェカツウラ
Cafe Katsuura

参 加 店 舗 を

ふる里マルシェ鹿野の敷地内でテントを設置し、ほうきやマスクケース、鹿野の伝統工芸品「山代和紙」の入ったチャームなどを販売していました。



as is

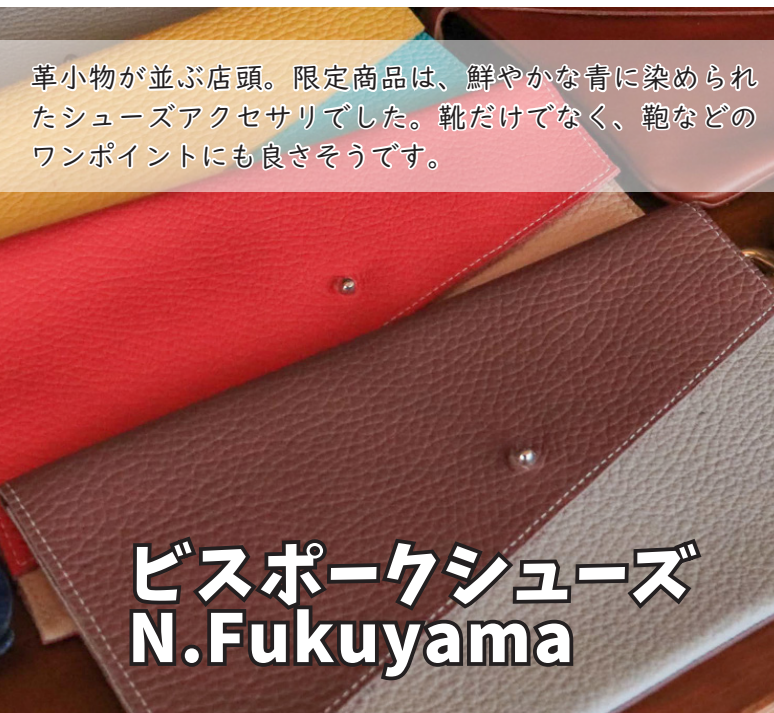
鹿野高原野菜の販売と、蔵出しギャラリーとしてカップやお皿などが並んでいました。店舗を囲む庭には、たくさんの花が咲いていて、のんびりした雰囲気でした。



オール
洋装いとう&
カフェル・レープ

巡 っ て み ま し た

革小物が並ぶ店頭。限定商品は、鮮やかな青に染められたシューズアクセサリでした。靴だけでなく、鞆などのワンポイントにも良さそうです。



ビスポークシューズ
N.Fukuyama

販売されていたパンや焼き菓子は、取材に行ったときには、ほとんど売り切れ状態！ オリジナルブランド「鹿音」のアクセサリもきれいで素敵でした♪



copain

鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2021.9
Vol.71

五感で楽しむ癒しの時間 ～ le ciel ～

天 空という意味のフランス語の名前を持つ「le ciel」というサロンが小泉にあるのをご存じですか？

ハーブなどを使って全身の施術をしてくれるこのサロンの店主は、ハーブコーディネーターの資格を持つ和田理香さんです。生まれ育った家をサロンに改装し、鹿野でサロンを営む思いについてうかがってみました。

和田さんが、女性が好むメニューを中心にこのサロンを開業したのは平成22年。通信講座を利用してセラピストの資格を取得し、3年の準備期間を経て開業に至りました。

学生時代からポプリに興味があったという和田さんは、ハーブを使ったフットバスやハーブ蒸し、血流やリンパを流す施術やツボ療法などを行っています。施術を行っていると、ほとんどの人は気持ち良くて眠っているのだとか……どんな心地よさなのか、体験してみたくなってきましたね。

サロンでは植物性だったり自然由来だったり、いわゆるオーガニックな



素材を利用しています。和田さん自身アレルギーを持っていて、体質的に使用できないオイルなどもあるそうです。お客さんも自分も安心して使えるものはなんだろう……と考えるながら、店で使用するものを選んでいるそうですよ。

サロンを訪れるお客さんは、鹿野の人や、鹿野にゆかりのある人が中心になっています。

「鹿野に住んでいて、どこか行く場所がないかな、

と思ったときに、出かける目的にしてみられればと思っています。忙しい日常を少し離れて、お客さんの気晴らしになるような、そんなお店にしたいかと思うています」と、サロンのことを語る和田さん。

外には素敵な庭が広がり、施術後にハーブティも楽しめます。ハーブの香りや施術だけでなく、まさに五感で癒しを感じることが出来るサロンだと思いました。

笑顔に

\\ Hurray! /

えーる!

「ワクワク」楽しむモデル業

和田理香さん

「le ciel」を営む和田さんですが、その本業はモデルさん。モデル業の本拠は徳山に置きながら、サロンもあり週5回は鹿野に帰っているという和田さんの情熱についてもお聞きしてみました。

和田さんがモデルになりたいと思ったのは、小学生の頃でした。背も高く、手足も長かった和田さんは、それを生かせるモデルをめざしてみようと思ったそうです。

広島の学校に進学していた頃からモデルの勧誘があったそうです。23歳頃から下積みを開始し、プロとしてマネージャーつきになったのは35歳の頃。プロになるまで、とても長い道のりを努力されています。

現在もコロナ禍の中、大変厳しい状況でモデル業を続けています。

「モデルという仕事柄、体型を維持し続けていかなければいけないんです。甘いものが好きなんです。が、体型の維持をするために、そんなに口にすることができないことがつらいですね」と、日々の

生活の中からストイックに向かい合う様子がうかがえます。

「モデルの仕事のやりがい、楽しさを感じるところです。本番前でも、緊張するというよりは、モデルができるとうきうきしてくるんですよ」と笑顔を見せる和田さんの初仕事は、下松市のモール周南（現在のゆめタウン下松）で行われたファッションショーだったとか。ウキウキと楽しみながら舞台上に臨む姿が目につかぶようです。

「モデル業は、できることから90歳ぐらいまで続けていきたいと思っています。年齢を重ねた後は、たとえば老人ホームのモデルとか、今以上にいろいろなものに挑戦してみたいと思っています」と、まさに生涯現役、という言葉があてはまるような思いを語ってくださいました和田さん。

苦難にも負けずに、モデルとしてもハープコーディネーターとしても活躍する和田さんの笑顔にエールを送りたいと思います。

ボディケアサロン le ciel

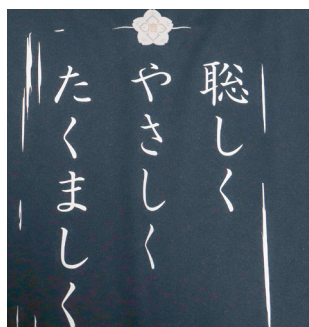
営業時間 10時～18時（定休日…月・火曜日）

※完全予約制です。

問合せ ☎080-6320-1256



キックオフ! 鹿野小創立150周年記念事業



皆さんは、鹿野小学校がいつ創立されたのか、ご存じでしょうか？
鹿野小学校が創立されたのは、なんと明治6年3月1日。令和5年3月で、150周年という大きな節目を迎えようとしています。

目前に迫ったこの大きな節目を記念し、有志の皆さんにより創立150周年記念事業実行委員会が設立されました。記念誌発行や記念イベントの実施、環境整備など、さまざまな事業が行われていく予定となっています。

8月21日には、同窓生や地域の皆さんに事業のことをより知ってもらうためキックオフミーティングが開催されました。スタッフの皆さんはお揃いのTシャツを着込み、その背中には鹿野小の校章と一緒に「聴しく やさしく たくましく」と

いう校訓がプリントされていました。校章も、校訓も、在校していた当時はなんとも思っていないかもしれませんが、こうしてOBとなり、改めて見てみると、なんだか懐かしいような、誇らしいような、不思議な気分になってきます。

コロナ対策のために間隔を空けて設置された席には70人を超える人たちが集まり、インターネットを利用したオンラインで参加する人もいて、たくさんの方に注目されて

いることを感じました。ステージでは「鹿野小フェス」と題して、鹿野中学校の生徒たちが結成したバンド「DEAR MY FRIEND」をはじめとした皆さんによる演奏が披露され、会場を盛り上げていました。

1時間ほどの短い時間ながら大盛況のうちに幕を閉じたキックオフミーティング。150周年の節目に向けて今まさにスタートを切った、その瞬間に立ち会えることができました。





鹿野小学校 創立からの歴史



改築や移設を繰り返しながら
今に至る、その歴史について
調べてみました。

●明治18年に新築された校舎



明治6年に創立した鹿野小学校。当初、二所山田神社の西側付近に建っていた旧藩紙見取所を校舎にあてたそうです。その後、明治8～14年にかけて、鹿野の各地に分校が造られました。大正2年に尋常小学校として創立した大潮小や、昭和36年に独立した渋川小なども、その源流にはこの分校があるんですよ。

明治18年になると市頭に右のような校舎が完成します。その後、昭和13～15年に薬師原へ移転していきます。

戦後、昭和37～39年に新校舎が造られました。その後、平成を迎え、さらに改築されて、現在の校舎になっています。

しだいに児童数が減っていつてしまっている鹿野小ですが、150年の間にはたくさんの方のすばらしい歴史があるんですね。

在りし日の思い出

木製の床と始業前の放送

私が在校していたのは平成初期の頃。当時の校舎は現校舎の、おそらく1つ前。右の写真のような建物だったかと思えます。

その建物の中で、一番印象深いものは、木製の床でした。皆が走るとバタバタと大きな音を立てる床は、掃除時に毎日雑巾がけて磨かれ続け、水を吸うとつやつやとしていました。

木製の床には隙間も多く、消しゴムや鉛筆を落としてしまったこともあったな、と思います。

い出します。

また、毎朝の始業前には校歌や町歌が流れる時間があり、その時間は静かにしていなければなりませんでした。

町歌も聞くことができたためか、合併で鹿野町がなくなつた今も「山並みはるか」という歌い出しを思い出すことができます。今は、何かの時に校歌を流すことはあるのでしょうか。

巢立って四半世紀を過ぎた今、あの頃がとても懐かしき思い出されます。



鹿野を応援する地域情報紙

えーる!

2021.11
Vol.73

アサギマダラ、舞う

秋

も深まり、朝晩の寒さも強まってきましてね。11月の「えーる!」

は、鹿野の秋を彩るアサギマダラが乱舞する金峰地区をご紹介します。

10月10日、金峰地区の約6キロメートルを散策するウォーキングイベント「金峰を歩こう!」が行われました。

秋晴れの中、金峰の山道を歩くと、運動不足のせいもあって息は絶え絶え、服は汗だく。着替えを持ってくるべきだったと思うほどでした。

しかし、金峰の何気ない風景……山道の途中で見た青空、冷たい湧き水、菅蔵の石塔群、古い家々の様子……そういうものたちを見ていると、長い距離を歩くことに不安をだった気持ち、スツキリと晴れていくのを感じました。とても疲れましたが、参加してよかったなと思いました。

そして、昼休憩を兼ねてたどり着いたのは、4月に行われた里山オープンガーデンの時に訪れた場所です。一面に咲く白いフジバカマに、何十というアサギマダラが舞い踊る様子は「すばらしい!



い!」の一言に尽きます。遠くは台湾からも飛んでくるというアサギマダラは、旅するチョウとも言われています。きれいな浅葱色の羽をひらひらさせながら舞う姿には、参加者の皆さんも大感激でカメラを向けていましたよ。1時間半の見学時間、最初はちよつと長いかなど思っていました。気が付けば出発の時間になっていました。アサギマダラを眺めていた時間は、あつという間に過ぎていきました。



歩いて知る金峰の魅力

今回、金峰地区の中を、自動車から降りて徒歩で散策する機会に恵まれました。そのおかげで、自動車に乗っていても気付かなかったものを、たくさん見つけることができました。

秋晴れの当日は、夏に比べればずいぶん穏やかとはいえ、帽子がないことを悔やむ日差しでしたが、吹き抜ける風は肌寒ささえ感じるほどで、すっかり秋になっていることを感じました。

今の位置になるまで2度の遷宮を経たという金峰神社を左手に見ながら、山道へと歩を進めます。うっそうと茂る木々の間に伸びる細い道を歩いていたら、参加者の人と話していると、こんな言葉が聞きました。

「山道なのに、下草が刈られて歩きやすいね」

不思議に思ってお話をうかがうと、本イベントの主催者である「防長の吉野をつくる会」の尾崎さんが、この日のために整備されたのだとか。険しい山道の整備を行い、参加者を迎えてくださったことを、とても嬉しく

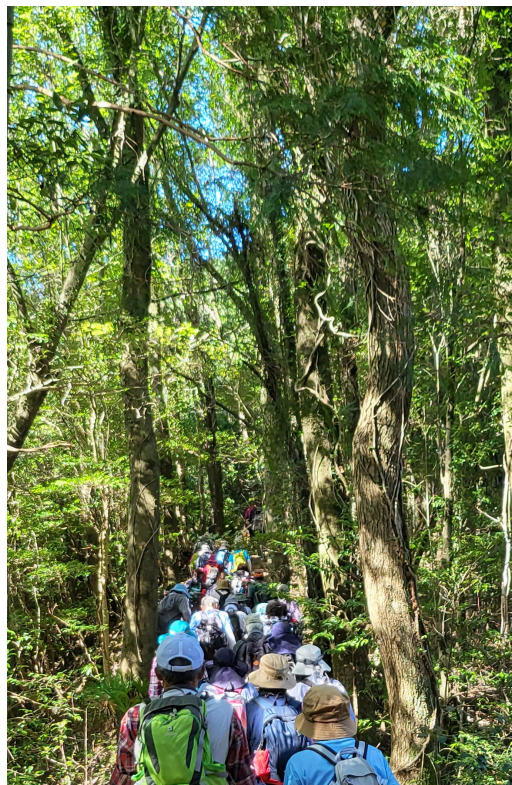
感じました。

他にもたくさんさんの魅力を見つけることができました。

見上げるような巨木が並んでいたり、足元には緑の深い中で目を引く鮮やかな紫色の花が咲いていたり、目を惹くものにあふれた山道を進んでいると、ふと日差しが強くなりました。目の前にまぶしいばかりの山の緑と空の青が広がる、まさに絶景というべき光景に、思わず写真を撮りたくなりました。

菅蔵の石塔群も訪れることができました。写真の石塔は宝篋印塔^{ほうきょういんとう}といって、豪族の墓として建立されたものですが、もとも法華経の經典を収める供養塔だったとか。他にも石塔が並ぶこの場所は、いつか訪れようと思っていた場所。山道を歩き、汗をかきながらたどり着いたからこそ、感動もひとしおでした。

今回のイベントに参加し、ゆっくり歩いたことで、アサギマダラだけではない「金峰」を、たくさん知ることができたように思います。



“こころのふるさと” 公民館に感謝の気持ち



●藤井市長と実行委員会の有国さん、劇団「わ」関係者の皆さん

昭和 42年5月に建てられた旧鹿野公民館が54年間の歴史に幕を下ろそうとしています。

今月号の「えーる!」では、解体後の跡地に鹿野総合支所を移転する方針が示された旧鹿野公民館に、感謝の気持ちを込めて行われた催し「ありがとう公民館」についてご紹介します。

有志による実行委員会によって、11月14日に行われたこの催し。午前中には、衣類や調理用具などを販売するもったいないバザー、公民館で保管されていた古道具たちのオークション、館外では野菜販売なども行われました。

せっかくなので、わたしもオークションに参加し、木製の小物入れを落札しました。家に帰って文具入れとして活用させてもらっています。こうした掘り出し物を前にすると、なんだかワクワクしてきますね。

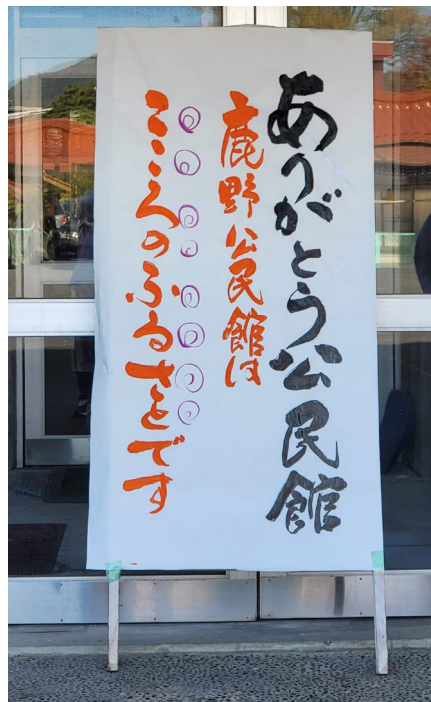
午後からは、鹿野町商工会さんが制作したビデオの上映がありました。平成初期の鹿野の様子を見てみると、子どもの頃の記憶がよみがえっ

て「こんなこともあったなあ」と懐かしさを感じました。

公民館長として勤務されていた福本勝さんから、岩崎家の文化財を公民館の2階に広げて調査をしたことなど、公民館との思い出を語っていたきました。

その後、藤井市長からのご挨拶をいただいた後のイベントの最後を飾ったのは、今年で20周年を迎えた劇団「わ」による公演「がんばろうよ! 鹿野の里」です。

劇中では鹿野のいろいろな催しや、劇団「わ」初公演で登場した高原列車、私財を投じて潮音洞を掘り抜いた岩崎想左衛門重友の逸話などが紹介されました。鹿野で新しいイベントを始めたいという、タイトル通り鹿野



の里でがんばろうという思いをテーマにした劇を、脚本を書いた坂本良夫さんをはじめ4名の演者が熱演しました。

どのイベントも、鹿野公民館への思いが詰まったものばかり。この場所と離れたくない、そう思わせてくれる、すてきな時間を過ごせました。



●公演準備を進める劇団「わ」の皆さん

●昭和42年5月、新築の公民館
(広報「かの」第164号より)



公民館の思い出

成人式、そして「えーる」の活動と共に



○令和3年11月の公民館

鹿

野町らしさのあるワラ家をイメージして建てられたという旧鹿野公民館。当時は約2千冊の蔵書を持つ図書館もあったそうです。しかし、なんといっても驚いたのは、ここで結婚式を挙げたという話でした。今では公民館で結婚式というのは想像しがたいものですが、公民館の思い出に結婚式のことを挙げる人はたくさんいらっしゃいました。映画上映なども行われ、当時の鹿野の人々にとって、とても身近だったであろう旧鹿野公民館は、昭和53年3月に新館部分が増築され、今のよう

な姿になりました。

わたしはこの新館で、下の写真にあるように成人式のお祝いをしていただきました。当時、県外の大学に通学していたためになかなか同級生と会う機会もありませんでした。が、久しぶりに集まって、ゆっくり語らう機会を得ることができました。編集のため久しぶりに写真を見ると、みんな若いなあ、などと感じてしまいます。

平成21年からまちづくり応援団えーるとしての活動を始め、16回の公演のほとんどを2階の講堂で行った劇団「わ」の取材をした時、久しぶりに講堂に入る機会があり

ました。重い扉を開けて入る、暗幕のかかる室内は、いつ訪れてもワクワク。まさに映画館で上映を待つときのような気持ちにさせてくれていたものです。

普段から出入りするような場所ではありませんが、いつまでもあり続けてくれるだろうと思っていた旧鹿野公民館。その解体にはとても寂しい気持ちを感じます。

この敷地に新しく建つであろう鹿野総合支所が、これからも鹿野の人たちと共にあって、新しい鹿野の中核になってくれればと思います。

○成人式の時のワンシーン。
わたしも写っています。

